

# 那須塩原市のバランスシート(普通会計)

借方		
項目	平成18年度末	1年間での増減
<b>有形固定資産</b> (うち土地)	1,353億1,730万円 (497億7,060万円)	△3億8,136万円 (+14億6,367万円)
1 総務費	93億2,191万円	+ 4億9,076万円
2 民生費	49億6,767万円	△ 2億3,607万円
3 衛生費	72億 999万円	△ 6億1,185万円
4 労働費	1,899万円	△ 90万円
5 農林水産業費	75億4,557万円	△ 5億6,745万円
6 商工費	40億1,824万円	+ 4,607万円
7 土木費	644億 712万円	+ 7億4,777万円
8 消防費	9億6,148万円	△ 6,772万円
9 教育費	368億1,855万円	△ 1億8,125万円
10 その他	4,778万円	△ 72万円
<b>投資等</b>	<b>91億 764万円</b>	<b>△10億9,936万円</b>
1 投資及び 出資金	10億6,115万円	△ 65万円
2 貸付金	387万円	△ 494万円
3 基金	62億2,138万円	△13億1,287万円
① 特定目的 基金	57億3,434万円	△13億1,323万円
② 土地開発 基金	3億 27万円	+ 20万円
③ 定額運用 基金	1億8,676万円	+ 15万円
4 退職手当 組合積立金	18億2,124万円	+ 2億1,910万円
<b>流動資産</b>	<b>72億7,565万円</b>	<b>+ 6億1,241万円</b>
1 現金・預金	45億8,274万円	+ 6億5,480万円
① 財政調整 基金	13億4,803万円	+ 19万円
② 減債基金	15億9,305万円	+ 7億 35万円
③ 歳計現金	16億4,166万円	△ 4,574万円
2 未収金	26億9,290万円	△ 4,240万円
① 地方税	26億4,349万円	△ 4,993万円
② その他	4,941万円	+ 753万円
<b>資産合計</b>	<b>1,517億 58万円</b>	<b>△ 8億6,832万円</b>

貸方		
項目	平成18年度末	1年間での増減
<b>固定負債</b>	<b>420億3,795万円</b>	<b>△ 2億 875万円</b>
1 市債	350億7,831万円	△12億8,716万円
2 債務負担行為	—	—
① 物件の 購入等	—	—
② 債務保証 又は 損失補償	—	—
3 退職給与 引当金	69億5,965万円	+10億7,842万円
<b>流動負債</b>	<b>47億7,187万円</b>	<b>+ 3億3,642万円</b>
1 翌年度償還 予定額	47億7,187万円	+ 3億3,642万円
2 翌年度繰上 充用金	—	—
<b>負債合計</b>	<b>468億 982万円</b>	<b>+ 1億2,767万円</b>
<b>国庫支出金</b>	<b>142億3,699万円</b>	<b>+ 5億1,680万円</b>
<b>県支出金</b>	<b>86億5,085万円</b>	<b>△ 2億3,776万円</b>
<b>一般財源等 (市税など)</b>	<b>820億 292万円</b>	<b>△12億7,503万円</b>
<b>正味資産合計</b>	<b>1,048億9,076万円</b>	<b>△ 9億9,599万円</b>
<b>負債・正味資産合計</b>	<b>1,517億 58万円</b>	<b>△ 8億6,832万円</b>

## 【補足4 バランスシートとは？】

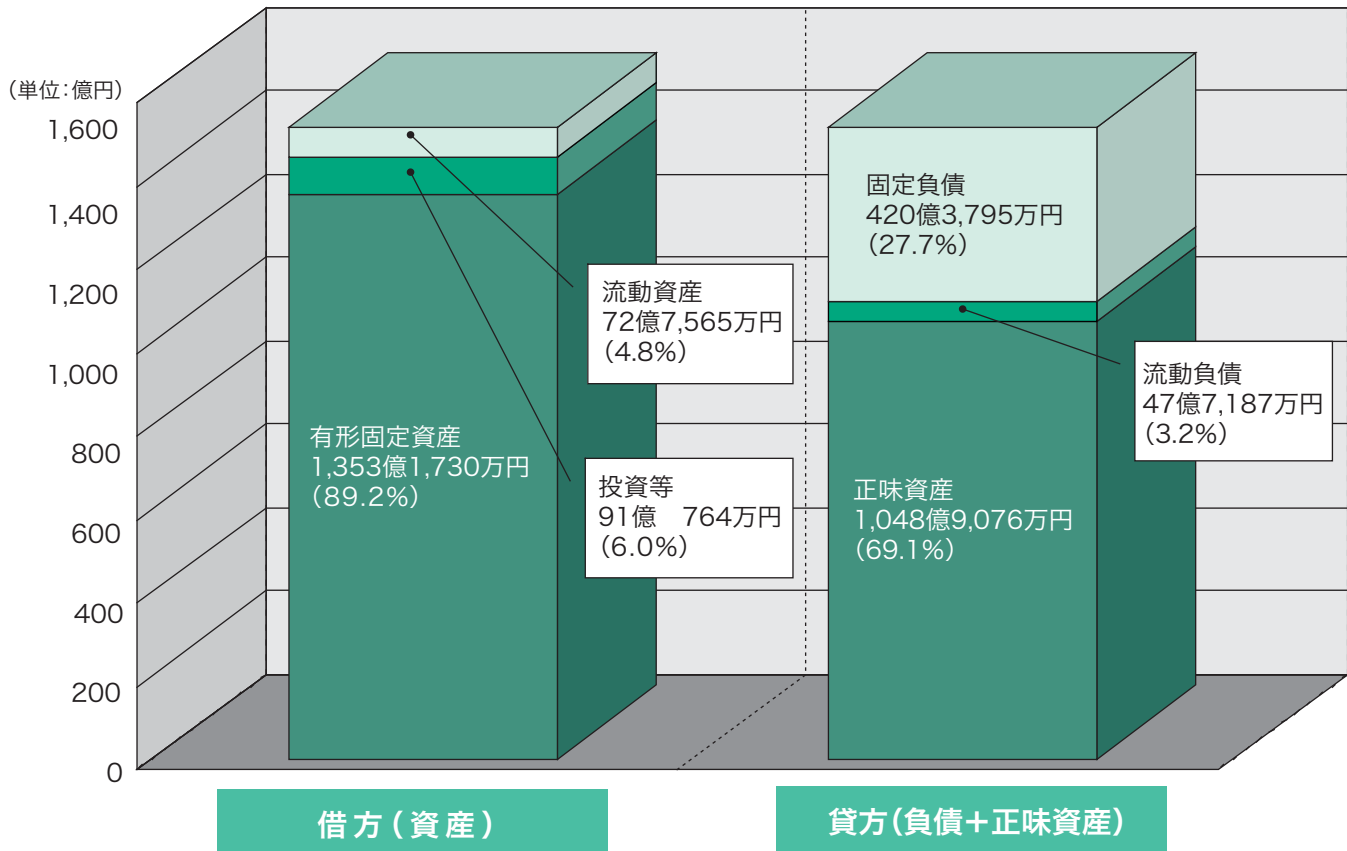
那須塩原市が築いてきた資産を左側に、その資産形成の内訳となった負債と正味資産を右側に並べて表示したものです。よって、左の表と右の表の合計は一致し、バランスが取れている状態になります。

バランスシートにより、財産(資産)がどのくらいあり、借入金の返済など(負債)がいくらあり、財産を築くために使われた税金や国・県支出金(正味資産)を知ることができます。

## 【補足5 普通会計とは？】

総務省形式の決算資料(地方財政状況調査)作成のガイドラインに基づくと、那須塩原市の場合の普通会計は、一般会計と公共用地先行取得事業特別会計と墓地事業特別会計の3つの会計を併せたものになります。

# 【平成18年度末バランスシートのグラフ】



## 【解説】

那須塩原市が持っている資産の合計は1,517億58万円で、内訳は土地や建物、道路などの「有形固定資産」が1,353億1,730万円、出資金や基金などの「投資等」が91億764万円、財政調整基金や減債基金、現金、市の債権(市税の未収金)などの「流動資産」が72億7,565万円となっています。

資産のほとんどは、「有形固定資産」で占められており、その資産形成における資金調達については、これまでの世代による負担である「正味資産」によるものが69.1%、将来の世代の負担による「負債」によるものが30.9%となっています。

## 【資産の状況】

### 1. 有形固定資産

前年度と比較して3億8,136万円減少しました。これは、平成18年度に新たに資産を形成するために行った支出額よりも、これまでに形成してきた資産の減価償却費の金額が上回ったため、市の行う建設事業を抑制したことを示しています。具体的には、有形固定資産の形成に59億6,328万円支出したのに対し、減価償却した有形固定資産は63億4,464万円となったことによるものです。

なお、平成18年度の主な資産形成は次のとおりです。

- ・総務費 塩原支所庁舎新築移転 6億7,040万円
- ・商工費 塩原温泉湯っ歩の里整備 2億5,000万円
- ・土木費 那須塩原駅北土地地区画整理 4億7,505万円  
(仮称)黒磯インター整備関連 2億5,443万円
- ・教育費 三島体育センターテニスコート用地購入ほか 2億8,753万円  
体験学習施設整備 2億4,249万円

### 2. 投資等

総合排水対策基金や庁舎増改築基金などを取り崩して事業に充てたため、基金が13億1,287万円減少しました。退職手当組合積立金は2億1,910万円増加しました。よって、投資等全体で10億9,936万円減少しました。

### 3. 流動資産

財政調整基金と減債基金に7億円を積み立てたことにより、流動資産全体で6億1,241万円増加となりました。

## 【負債の状況】

前年度と比較して1億2,767万円増加しました。負債のうち翌々年度以降に返済が必要な借入金である「固定負債(市債)」は350億7,831万円で、前年度と比較して12億8,716万円減少しています。これは、平成18年度の建設事業が抑制されたことから、その財源である市債(借入金)の発行額も抑制されたためです。

また「流動負債」は前年度から3億3,642万円増加し、47億7,187万円となりました。これは、平成17年度に借入した合併特例債15億1,730万円の元金返済の影響によるものです。

## 【正味資産の状況】

「正味資産」は、これまでの資産の形成に調達された資金のうち、将来の負担が必要ないものを示しており、前年度と比較して9億9,599万円減少しました。

その内訳は、国と県からの補助金が2億7,904万円増加しましたが、一般財源等(市税など)が12億7,503万円減少しました。

正味資産が減少する理由は、有形固定資産が減価償却して減少すると、それに連動して正味資産も減少するためです。